

寛永諸家譜

清和源氏西四冊之内  
義家流之内義時流

|      |            |
|------|------------|
| 内閣文庫 |            |
| 番號   | 和 20199    |
| 冊數   | 186 ( 21 ) |
| 函號   | 特 76 1     |



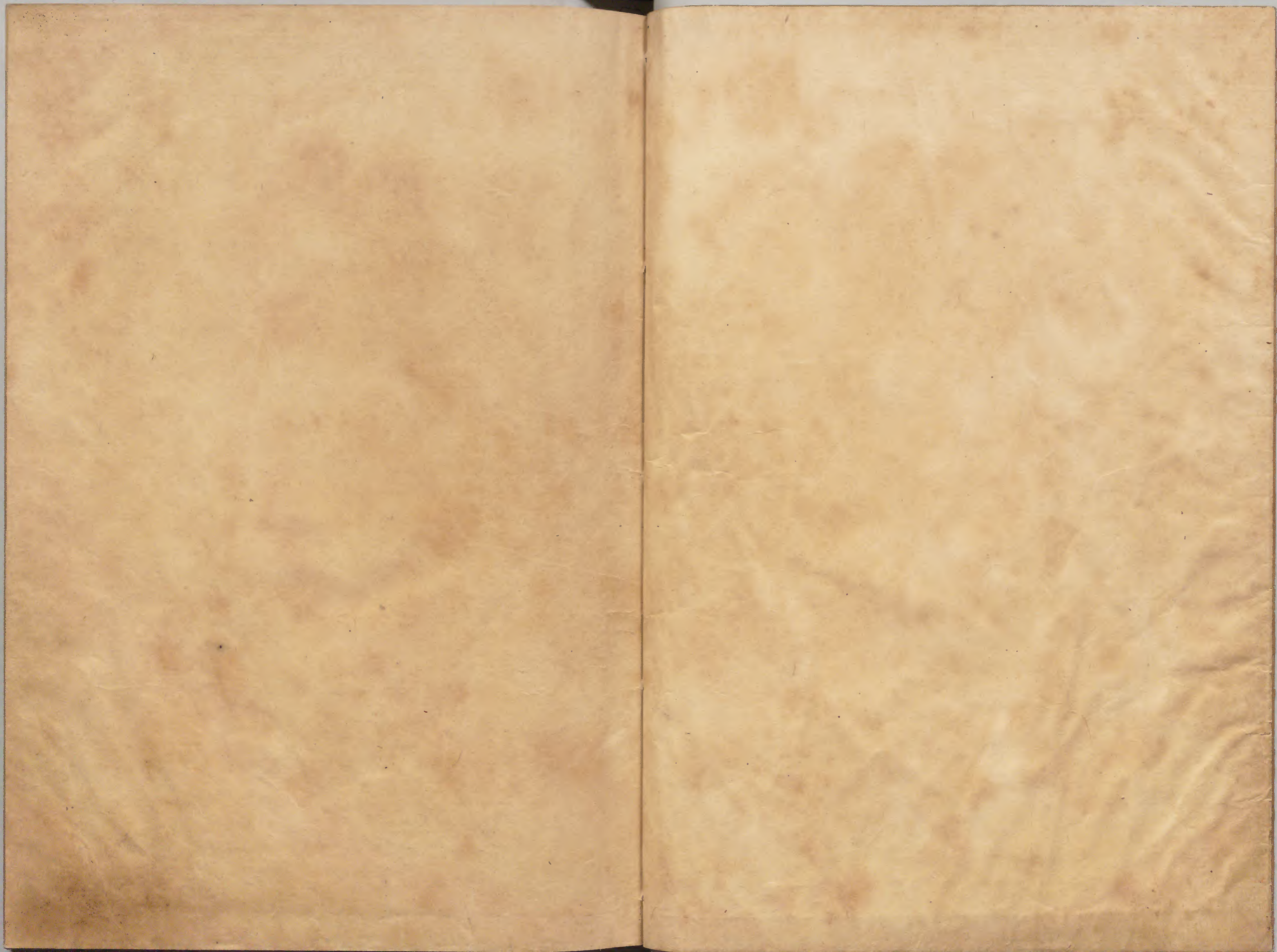
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





石川

寛永諸家系圖傳

清和源氏

丙三

義家流

義時流

石川

石川の...  
陸奥守源義家五男

● 義時

陸奥五郎

石川清尉

浅草文库

義基

まもりのこころ

むさしのこころ

おろのかけ

下総将軍

武蔵守

後五任下

河内守石河郡守

らせ

らせ

らせ

治承五年の壬辰義基よりひよ子義直

東へおのりしと頼朝卿小属せんといひ

二月平家より源を定判友季貞徳

判友感徳とほりてこゝ余騎といひ

石河の城とせしむ時義基少せごたけ

城申れ共しけし百騎の衆たりたり  
おせく小たよりなりて義基討死す

義資

長清尉

百刀祖

二條院判友代

義廣

赤院次宿

鎌戸祖

義直

石河判友代

長清門尉

河内守正五任下

院昇殿 かんのぎやうだん

後白河院小治人 ごしろくわのわん しょうぢにん

治承五年 二月 又義基と仰どく石河 ちげうごねん にがつ またぎもとをうどくいそ

の城とまらり しのしろとまらり 平氏れ へいらいれ ともおたむく ともおたむく 疵 きず

とらういけとらうとらう とらういけとらうとらう

義宗 ぎしゆ

大学助 だいくのすけ

板金二部 いたかねにぶ 与 よ

頼房 よりむら

右馬頭 みぎのうまがしら

正五位下 せいごいげ

右馬左 みぎのうまひだり

内昇殿 うちのかげ

土御門院小治人 つちのみかど のわん しょうぢにん

頼清 よりきよ

左秋門院 ひだりあきかど 院 のわん 右 みぎ 人 にん

判友代 はんともしろ

義信 ぎのぶ

義貞 ぎさだ

修理亮 しゆりのあきら

義通 ぎとほ

和連門院 わづらのかど 院 のわん 右 みぎ 人 にん

右河内守 みぎのいわたのまもり

忠頼ちゆうらいのしよめとめとら

忠教ちゆうけう

式部丞

漢五位下

忠頼ちゆうらい

左衛門

男子なんしふれちりふり外孫そとひらひら義忠ぎちゆうと養子やしよとす

政年せいねん

与一

宗泰しゆたい

八郎

義忠ぎちゆう

保吉郎

治部丞

實まことハ和連わづら門院かんの為人のひと義通ぎちゆうが子こ

元弘げんこう元年げんこうねん秋あき後ご醍醐たいご天皇てんわう和列われつが子こ

時通

信幸ありて小糸をあらふんとしたまふ  
と此才義継がき地小こりうて忠義と  
りうら死寸義忠かつるが人回通れきこく  
阿うまうる小山判友ハ義忠とくうみ  
少ううて實名とたつとせんうらま  
く阿うらんと申こい義忠たむびま  
通おとちひくくト野小小山小ゆ

孫右衛門

又と申く小山小あし

朝成

小十郎

女小山下遊高胡女 石河氏と改て  
小山と称寸二頭衣色と旗着希の紋  
輪の月れ篠とつくうへ紋

氏房 うぢふら

小山五郎

泰信 やすのぶ

小山新五郎尉

政康 まさやす

下野守 しもとのり

文安年中本朝も蓮如上人下野入りて  
かんえんねんちゅうほんていもれんじゆうまんにん  
 政康よりありていりていりて  
まさやすよりありていりていりていりて  
 我門流のうら小武されおとて  
わがもんりゅうのうらこぶされおとて  
 一房より知事人ころの是なり縁がり政康  
いつぶらよりちしよじんころのこのはなり縁がりまさやす  
 三列へ入りて我門流を返せよと  
さんれつへいりてわがもんりゅうをへんせよと  
 ありしゆへ政康幼孫にてと人小おとて  
ありしゆへまさやすのこ孫にてとひとこおとて  
 三列小入りて小川の城に居候すを  
さんれつこいりてこのがのしろにゐり候すを  
 本氏小入りて石河と打のる  
ほんぢこいりていしかわとうちのる



親康 ちかやす

長清尉

松平親忠ちかむねの政康まさかたは信のぶく子のものより二人  
をほつてきて家老けらうとあつちをたてしめし  
とらけいふり三男親康ちかやすとをす  
十四年じゅうしよねんの去清きよお小かわくえ殿けん  
これ則清すなはちきよ清の親ちかの字なとくさし家老けらう  
例れいとすむされしは始はじめ小川こがわにて源三郎

親康ちかやすとなめし

忠捕 ちかとり

長を文

親忠ちかむねよりなりし小忠次ちかむねより小川こがわ久保くぼ忠次ちかむね  
清きよお小かわくえ殿けんの則清すなはちきよ清の字な  
とくさしは信のぶ右衛門ゑもん忠捕ちかとりと号なづす  
忠捕ちかとり若年わかしよの比ひ父親康ちかやすが下知げちとらけく  
とくく小川こがわ小川こがわ伯父おやの源三郎げんざう長

入道とおつりて野寺うれ印地さうじ  
沖味方ふまひるべし役とさう親睦  
と安祥れ城へ入る

清道

宗風書

清康君 廣忠卿

東照大権現清三代へ侍人すくまひら  
廣忠卿の沖時清道清あらくんはれ

清道と支配寸

大権現沖道書の印清道義目の役り

きしき外清切少のる清めれあ  
くはし

天文十九年 廣忠卿沖道

大権現はく八軍少く尾列より三列へ

ゆき世たすむくすむら後列よかむせ

ゆきとまはれすむら人とあひてけ

あらしよりら摘除伯耆守とあひてけ

沖波つななみ一清いっせい過か之の列れつ小せう此こ一いつつとつとまら  
てて涉しや衣い食く難なん手て等とうととおおととれれ人にん後ご列れつへ  
ををととす

家成いけなり

日向守ひがのり 後五位下あごいかげ

大指おほさし現げん小せう治ち久くもも清せい通と死ししてして後ご 釣つり命めいと  
より家督いけとくととははく

永祿三年

大指おほさし現げん尾お列れつ榎えん山さんのの城じやうとと甘かんああととひひととひひお  
回まわ玉たま石いし隙ひまれれははよりよりああいいののときとき家成いけなり涉しや先せん  
ととははくくけたけたままららるる

同六年どうろくねん三列さんれつ一向いっかう家督いけとく起おこのの時とき家成いけなり一族いっさく  
ははつつ流りゅうととふふととひひててここをを敵てきととちちららととななまま  
家成いけなりのの宗そう旨しめとと人にん軍ぐん志しととげげすすととなな  
よりより一いつ族さくののううらら味あじ方かたととししららののああまま

おおりりとと後ごちちららとといいふふおおちちりりてて涉しや利り軍ぐんのの  
後ご東とう三さん河か氏し真まととららとといいてて山さん中ちゆうのの

てと家成とくさるよりうて歌と對陣たいげん寸長すんちやうは爲  
城じやう一の宮みやの後ご浩こう沛ぱい油ゆの合戦がっせん五井ごせいれを  
地の合戦ちのがっせん小こづ道みちも家成とくさる沛ぱい先せん子ことつけ  
たまらる

同十一年

大権現おほごんげんを列りゅう沛ぱい入いり小こ

同十二年どうじふにねん今川いまがわ氏真うぢまことがたてころる熱河ねつがの  
城しろとせめたまふ村家成むらや沛ぱい先せん子ことつけ  
たびくれせうちいりうは城しろちうひま

けて沛ぱい先せん子こ今いま後ご寸すん長ちやう熱河ねつがの城しろ家  
成とくさる配はい一いつして長ちやう須す寸すん是こゝろより為な之の河が入いり小こ家  
成とくさるの紐ひもとせらうて毎まい夜よは先せん子ことつけなる  
頭あたまの役やくとむ甥おひ伯はく耆し者しや小こゆづるゆづる也なり  
大権現おほごんげんれ始はじめ小こりて伯耆はくし者しやとれとつむ

是こゝろより武ぶ方ほう之の列りゅうの徳とく士し二ふたよりはつけぬ

酒井さかいは武ぶ方ほうの尉ゑいあ人ひとれ紐ひも小こはけらる

元龜げんき三年げんきさんねん十月じふがつ武田たけだ信玄のぶひらを列りゅう小こ出で強ちやう

地ちとさ地ちとさこゝろの信のぶ玄ひら小こと何なにとせらる

いしかり一色川の石香具られ城を歌

かろあひびの家が色川より

あまをせわく曉よりつて城を

同年十二月之方系合戦の時家

小ぢりつて小阿平聖まれば月

引つて

大権現東之河へ津御れはし

大場ぢりと信玄ぶつらうの

れ敗軍小すしと地みらせぬ

第もろぶられしきりす

といらふしゆす

天正八年家督と嫡子長

はりて後隠居めんと是列

長十二年康道病死す家

めんと小孫成亮よりつ

城より居す

同十四年十月小病死七

康通やすとら

たはるを文 公の事 後五徳下

天正八年小家督とほつ清先きよさきのちり

小くしるる

同十八年

大指現開東清入金の刻を習外極のふ

らひ五徳のりく清書とおほあ御上

治のときハ康通一徳のくを歌しく徳を

忠総ただむね

孝長五年けいなが皇徳寺大徳の成しく徳五  
万石まいしやく相代寸同十二年七月病死年五十四

家十郎 主殿しゅとの

實ハ大之保相持也忠隣ただりんの次男 家成けいなる

和孫わひまろなり

孝文長元年

右徳院殿中みぎのつとむらあ小おわく元服の時清清きよきよ  
れ忠の字とくするれ家十良忠總と号す

同三年城列とくさき休やすん小こより

大権現おほごんげんへへ流ながるるももるる

同五年

大権現おほごんげん京きやう務む退たい法ぽうとと下した將しょう小こ山さんより

河かをを敷しののとと流ながるるとと流ながるる一いち組ぐみのの勢せいと

佐さ治ちけけららるる

大権現おほごんげん小こ山さんよりより河かへへ還かへりり流ながるる後のち石いし田でん法ぽうと

お備おび之の成なり保たもちちとと同どう年ねん九く月げつ朔しやく日にち河かより

沖おほ出で島しま同どう十じゅう五ご年ねん關せき原げんよりより河かをを流ながるる沙さ合が戦せん

のの時とき忠ちゆう總そう休しゆうををすす

同年どうねんのの冬ふゆ

大権現おほごんげん沖おほ出で島しまよりより河かをを流ながるるとと河かをを流ながるるとと河かをを流ながるる

とと流ながるるととすす

同八年どうはちねん流ながるるとと流ながるるとと流ながるるとと流ながるるとと流ながるる

日にち十じゅう四し年ねん祖そ父ふ日にち白はく身み死しすす

大権現

名な徳とく院いん殿でんとと流ながるるとと流ながるるとと流ながるるとと流ながるるとと流ながるる

と流くぬされ給小よりて是後小大坂の城  
をぬれす

日十九年正月大久保お控者忠謀に御乳

と〜うに列よ是なるは忠謀後府に

町屋団居す

同年大坂を亂のとき

大將現と意よ忠謀衣川れ家督とほげり

へ實父お控者孫坐しハ町るぬ〜すこ

台徳院殿へ御しけらと清先よれなみり

らいく〜り大坂を急へ出張し一月あり  
小五分一のとき出とせめとる十二月朔のゆ  
りこざんちのて小

台徳院殿よりをぬ石見守らる本苑後者と

と使と〜て忠謀陣場おつじらやとの

と〜ちらう日る城ちやう中より他波の橋の如く

人ぬと〜らるを城ちやう中へ〜いとて志

け〜くろれ〜らよあるよう

大將現〜この〜の〜れぬ西〜お物〜



自願正とつてくしやくしりたるゆえにせよ  
信とつて申屋よゆるとき

と法院殿より回夜印紙を發動せしめ  
と使

とつて去るはのしよ  
信下する

聖とつての事多しのとき

大権現の信とつけたまはりて  
持列言擬れ

城とまゐる五月ちのりめよへするるさの

とつて七日の屋色小ゆを鴻とつて京

橋より入るりいけいけい首敷二百牛捕

七十人と結寸

元和二年駿府少く

大権現沖右例の別四月字れ正なるふりて

沙寢可へ向作寸  
と意よハけんちる年

とつてはつて石川日向守家成死まれぬ

實父相控ち忠講りくる石川長門忠康

通が却少の子ことありと志さうりよ申とん

と忠總とつて石川の家とほがすぬとつて

早名つらつとつてぬんがだして  
信はけらる

るうれ心申えんがとつてけりて好向後かんこうご

台徳院殿へてけりて久しき事なれしなりて

大に保持老練と云ふ事なりて大徳に新あたら

田とひらく事なりて松尾の事なりて

言とてけりて事なる事なりて

けりての事なりて事なる事なりて

より清然と云ふ事なりて事なる事なりて

事なる事なりて事なる事なりて

大徳院御使界れ後同年の秋大徳と云ふ事

寛永九年肌後小徳と云ふ事なりて  
同十年

お軍家より下総小徳と云ふ事なりて  
増一石と云ふ事なりて

同十一年

お軍家御上法の徳と云ふ事なりて  
叙せしむ先徳と云ふ事なりて

トけりも子孫くましく是の如くす

將軍家津重の村跡に津重小幡す

同年依倉とありてあま京師を可れ

伯少くは列昭可れ城也

日十四年 子代非若津徳生との御養目

此役と 伯少けらる

成尙

日記 後五佐下

實ハ大原相模と忠隣五男 祖父石川日向也

家成徳者領五子石取能す

又忠隣津勅乳と叫ぶる成尙因居す

元和元年 指列大坂小坂わく六月迄

合戦より順名のもより物々城申様門は

下より二級とゆへ付能す

層橋

京十郎

寛永十一年十二月没五位下小叙かんやの彈正  
大弼だいび小伝守

総長そうぢやう

信十郎のぶじやう

寛永十八年 釣合つゐあひ小伝守こでんしゆ清小姓きよこせい伝の番  
頭かぶととなり

同年十二月没五位下小叙ごうご一掃そう磨ま書しより  
伝でん守しゆ

貞當てんたう

八言はつごんたた馬ま

八祖はつそ母ぼの氏うぢししららふふうう石川いしかわとと阿あ々々りりてて上う格かく  
とと梅うめ鏡かがみとと守しゆ

寛永十年筑地つくぢとと伝でん守しゆ

同十五年清書院きよしよゐん番ばんのの組ぐみ頭かみととなり

同十七年 釣合つゐあひ小伝守こでんしゆ清書院きよしよゐん番ばん頭かみととなり

同十八年正月没五位下小叙ごうご一掃そう磨ま書しより  
小

伊予 いよ

泰総 たいそう

持七郎

寛永十七年 かんえいしちねん

命下りて沙書院書れ めいごりてさしごいんがき

継入 ついでいり

那総 なそう

長十郎

寛永十七年

命下りてを約す めいごりてをやくす

信之 のぶの

総氏 そうじ

才右衛門

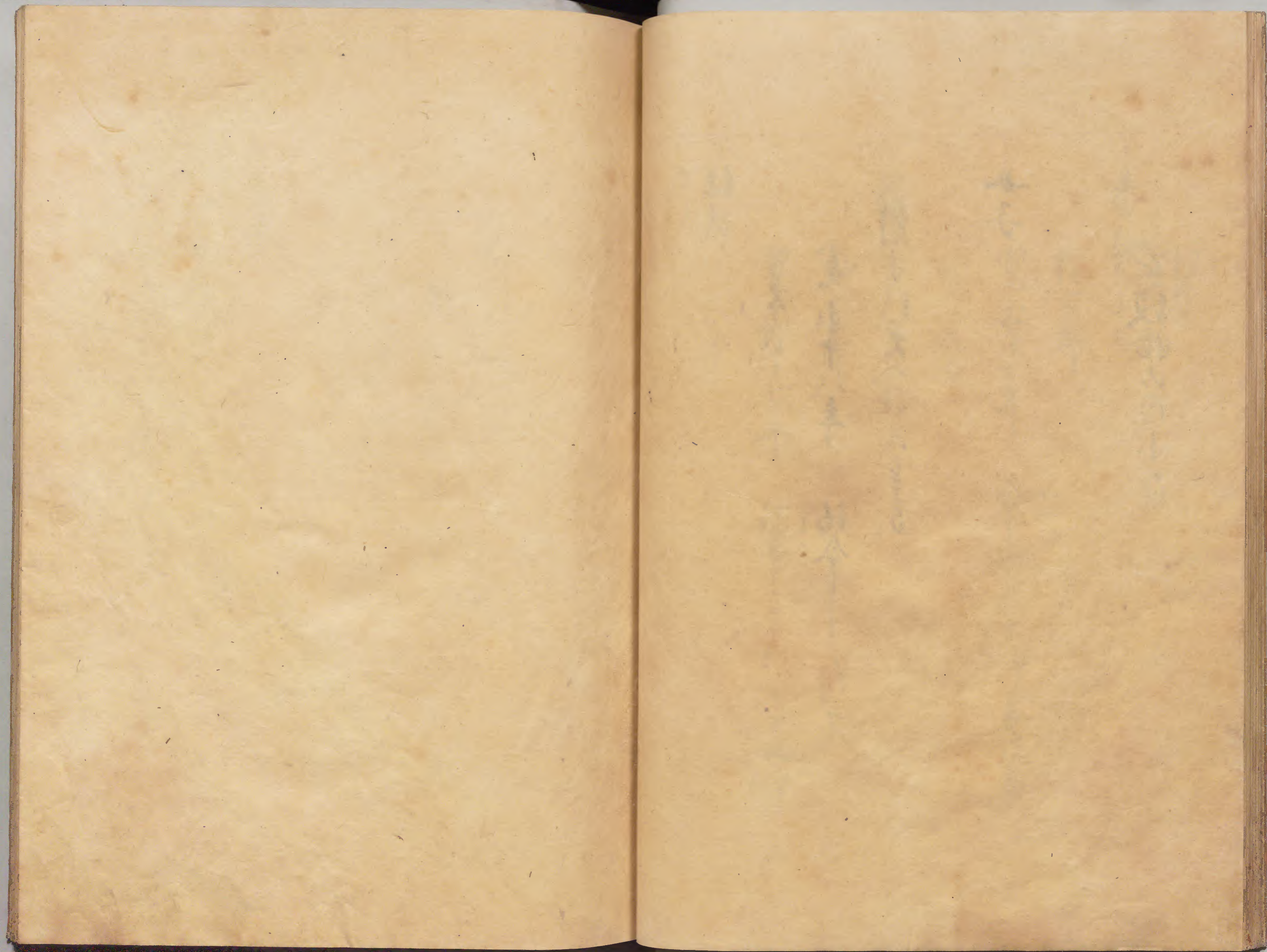
寛永十八年

命下りて めいごりて

竹子代君へ信之もす たけのこしろのきみへのぶのもす

女子

家紋拾の内小孫 そのゑんま



● 家成 とく

日向守

長十郎ちやうじやう法ほふ列りやう大たい場ばう小せう丸まる七しち十じゆ六ろく歳さい  
小せう丸まる七しち十じゆ六ろく寸すん

石川

先祖せんぞのの次つぎ守し伴ばん小せう石いし川がわ白しろ髪かみ頭あたま忠ちゆう總そう  
系けい圖ず小せう丸まる七しち十じゆ六ろく寸すん

康通

長門守

寛永十二年八月廿一日  
病歿

重成

右京亮

家成が二男として  
兄康通の後父家成小しうして

東照大権現と伝説あり  
約令小しうして

家成が孫と伝説あり  
家成の孫と伝説あり

寛永十一年

寛永十一年

お軍家沖と伝説あり  
寛永十一年

寛永十一年

お軍家と伝説あり





政康

まさやす

石川

いしかわ

先祖の代々石川と安部忠總系圖

ちかきけいづ

小詳なり

こしょう

下総

三河小川小領寸

とがわ

こりょう

此君二代申領

このきみふたごうしんりやう

重康 しげやす

田原の地

生玉之列

重政 しげまさ

又田原

生玉之列

幼少のとき人とならむとて浪人となり  
一向宗大坂城にたてこぶるも重政  
も城守よりあつた信長多勢と討ち

是とていふに重政城守よりすまみ

敵三人とらるる敵方重政が

威に磨きあつて夫百歩要脚千之

至無大校現これとていふに

すまみとていふに

あつたりほげとていふに

大校現とていふに

はくす

松平と野分と列長沢の城また

大杉現波城とせりふよと重政一番小屏

へけりこい西と結少くはきかきれい

あいにりらる

大杉現津流ちよしは忠厚の約命とひ

少家

三列室小富永さく城とる人城申より

法路と下知しる者あり重政ととんけ

敷うげへーのびよりとと者と射にうする

りらうれ首ととんをり重政ととんけ

けふ夫重政がまうらへりらうのうらへ射ぬる

大杉現らうこい西と結少くはきかきれい

とぬるせしる

をり長元年五月廿ら病死八十七歳

法石常順

重次

八尾門尉 牛國三列

大杉現へはせられけりらうと後

右徳院殿へはくしむる浄使書の後とける又

也浄書法を所と 給けらる

を列を同浄陣の時武田信頼の足輕

大ね須友らんと重次と道とらるる

三列、萬が果合戦の時さるるあり

天正十二年、蟹江の城は、河川一並たて

こりらとせ

大権現浄を叙重次浄をへらる鉄炮

小ありらされども、これ浄へけとめて、小

祇法寺に付もつてけらる 初命

とけたまはる

寛文十八年十二月十日病死時五十三歳

法名浄雲

政次

八幡門 生玉三列

政信 まさのぶ

又四郎

生玉武彦 なまたまむらた

重勝 しげかつ

六右衛門尉

生玉三河

大掾おほのつとむ現いまとなりしなりし沖おき納のり戸のり役やくとつと勤とじ

後

右徳院殿みぎのつとむ小こ治ち人ひととなり

均ひとしげ命のみこと小こ治ち人ひととなり

沖おき役やくとつと勤とじし後のち 作つくりしなりしなりし沖おき

膳ぜんとつと勤とじし又また沖おき核かく目めとなり

右みぎ軍ぐん家けとなりし又また沖おき核かく目めとなりし又また沖おき私ひ子この

役やくとつと勤とじ

寛かん永えい十じゅう四し年ねん六ろく月げつ八はち日にち病やま死し軍ぐん九く宗そう法ぽう石せき

冷心 れいしん

重貞 しげさだ

又十良

生玉武彦 なまたまむらた

寛永九年

將軍家と相しむる

同十九年六月廿七日御書院書とす

重後

比十郎

牛玉相列

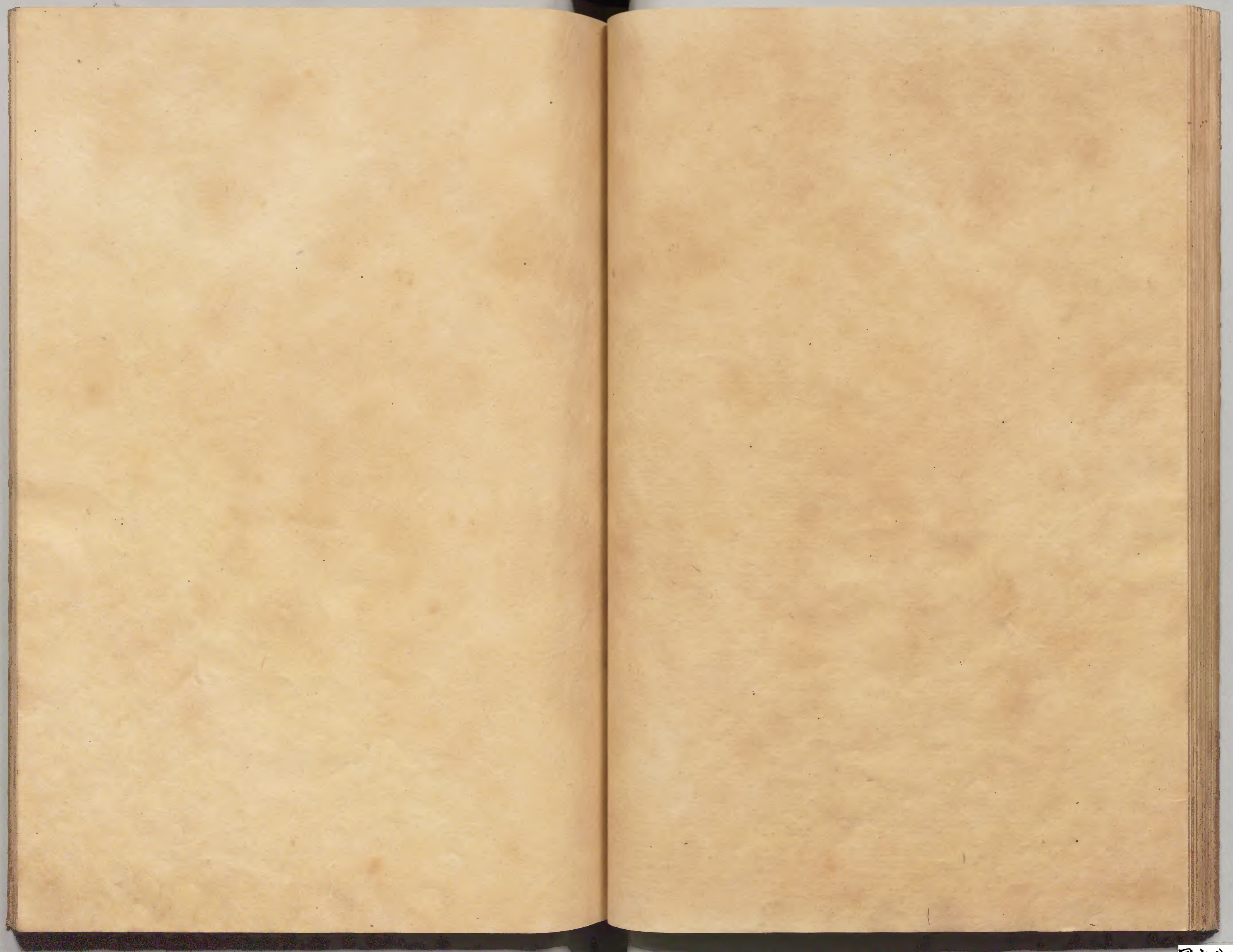
寛永三年

將軍家と相しむる

同四年御書院書とす

同十年御書院書とす

家紋此の御書院書





石川

● 貴勝 たから

しげゆ  
勅命申上御

しげゆ  
中御

吉貴 よしか

かろ  
成吉上御

中御

貴繁 たかしげ

孫七郎

孫左衛門尉

生玉回あ

東照大権現小治久しる

五十八年少く

死す

貴成 たかしげ

孫左衛門尉

生玉回あ

實まこと赤井あかゐ友左衛門尉ともざゑもん幸長ゆきちか子こ幸長ゆきちか

討死うちころの後ご孫貴繁たかしげ養子やしやうとす

長十五ちかじふご年とし駿府しんぷ小かわく

大権現おほごんげんとわ獨ひとり一ひと身み長父ちち貴繁たかしげ家督けあか

とほとほ二十石にじゅういしの地ぢとね死にす

大坂おほさかの陣じんと後ごす

大権現おほごんげん夷ひら沖みの後ご

右衛門ゑもん院いん殿でんへへとつつとてて沖書院みづかきいんああと勤とむ

寛永くわんゑい十年じゅうねん

將軍しやうぐん家のけ 伯ちちと明あきらくちち沖使みづかきああとす

寛永十一年 沖加増千石に就き一子に  
此世に就す

貴政 たかまさ

左次郎 ひだり 生玉後列 なまたまご

寛永十七年 かんえい

將軍家へ仕入るるに後

均令小徳 なご

沖書院書と勤む おき

貴定 たかさだ

左近衛 ひだり 生國武彦 なまくに

寛永十七年 均令小よりて沖小徳 なご

此沖書と勤む

家紋二割書 ふたわり



時家 ときや

赤井越前守 あかゐ 且國丹波赤井 あかゐ 又源氏也 げんじ  
母波中屋の押代使 おししろ 八十八歳少 やうじ 病死 ひやくはちじゅうはちさいしやうびやうし  
法石小休 ほうせきせうきゅう

幸家 ゆきや

刑部卿

且國丹波

法石釣月 ほうせきつりづき

幸長 ゆきちか

友老の 上田白子

子列演松小かわり

大権現と名揚り 小よりて御井た為御

小河がけらるゝ後小室原に居り 射小けり

信列上田小かわり 討死時小三十五歳

家紋鷹金松子

一政

石川

傳左衛門

自述之海

廣忠卿小治子

三列大濱のうら少く地守

法石

伊落

一勝 いちりつ

傳次郎

生玉回廊

天正十八年關東沖入玉の村回廊とあり

しりしりのふたはらふり しりしりのふたはらふり 玉の村回廊とあり

手廻りとあり

天正十九年六月吉 駒林村小かわり

病死し七十七歳

一長 いちちやう

次郎長清

生玉回廊

台徳院殿

將軍家より流るる

寛永十二年三月七日江戸よかわり

病死 七十一歳 法石よりあり

一次 いちじ

傳次郎

源五郎長清

生玉武藏



寛永十五年

お軍家とねしもの

同十八年十月廿六日 御小奉行にて御係之儀

御少く小十人御頭とせり

家紋丸の目と新膳

●  
正信

石川

半六郎

生田之河

唐忠卿小治之屋

東照大権現小治之屋

正俊

半之郎

生田之河

ひらき  
廣忠卿小治久長後

大権現小治久長

を列漢松の城少々討死時十二月廿二日

なり

正次

まね

生玉

大権現小治久長

お軍家小治久長

正重

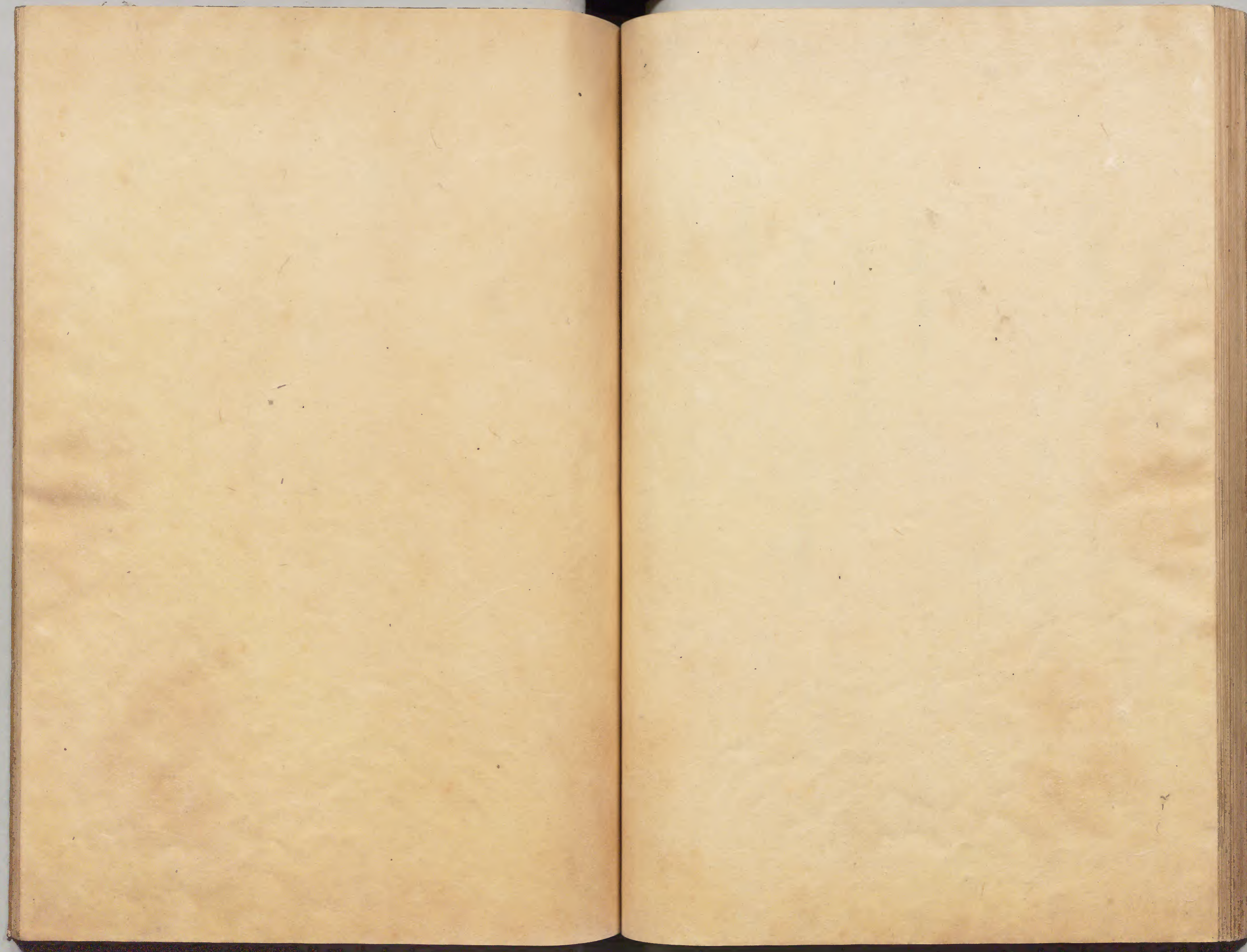
長五郎

生玉

寛永十七年

お軍家小治久長

家紋



石川いしかわ

● 春重はるしげ

豊前守ぶんぜんのかみ

牛車之列

東照大権現へはくもる

春久はるひさ

白旗之節

牛車之節

大徳院小治久事

寛永元年二月廿五日病歿二十八歳

法名淨道

重久

江州長清

生玉武院

寛永十二年三月

台徳院殿小治久事

大坂浄律小治久事

元和五年十二月十日病歿二十八歳

法名道行

長吉

八丈史

生國白鳥

元和六年

台徳院殿小治久事

寛永七年

將軍家八治久事

そのらん  
家紋  
雪公源

石川

● 忠勝 ちゆうりく

三益

牛車之河

法石新世 ほうせきしんせい

ひらたのちゆう  
廣忠卿小治子

忠吉 ちゆうきち

与三郎

丸良若清

牛車同安



東照大権現へはくしむる

寛永十四年病死八十六歳法石道榮

忠久

傳七郎 九郎若活 生玉回子

台徳院殿

將軍家とねしむる

法次

七郎傳門 生玉武列

元和九年

將軍家とねしむる

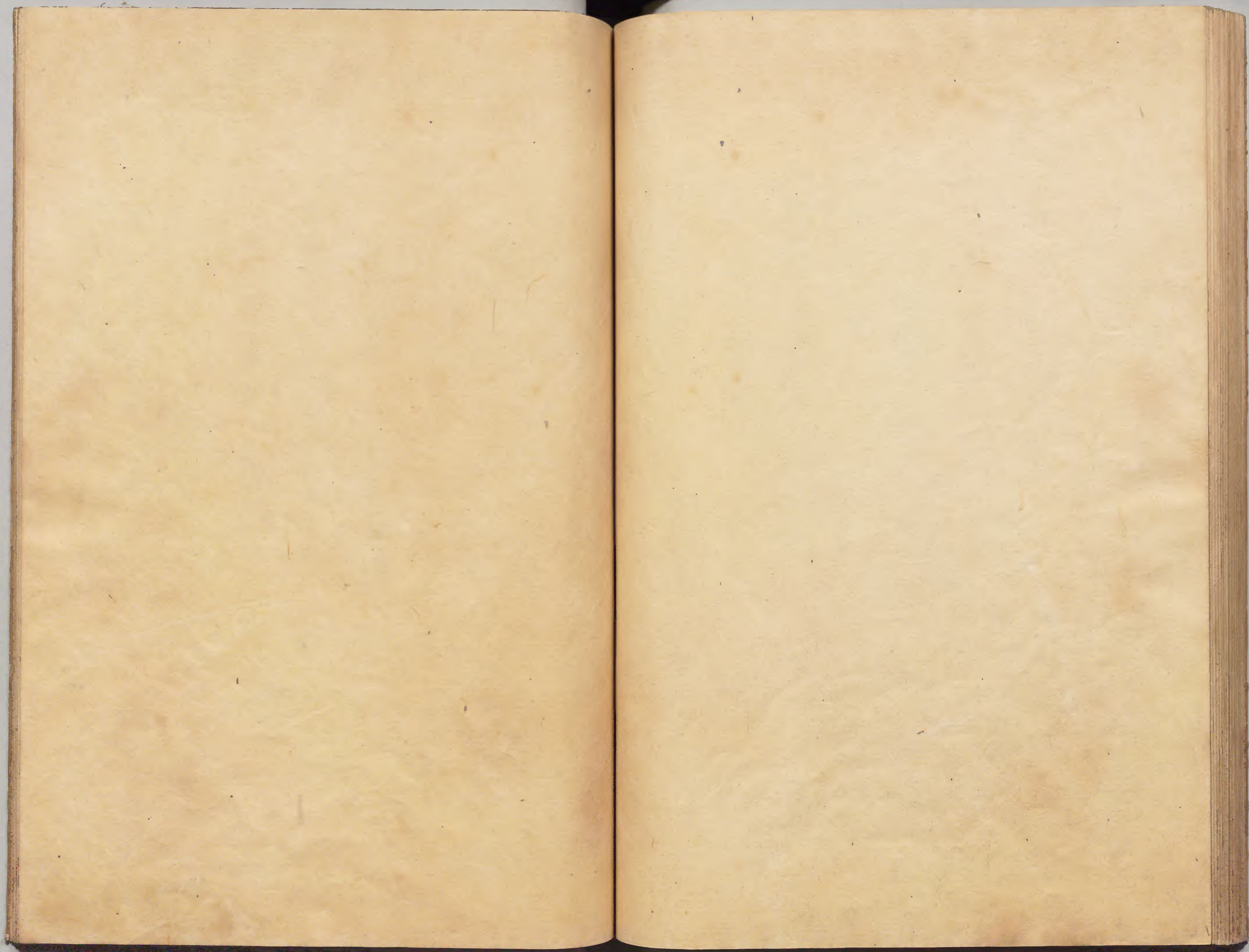
法久

台徳院

寛永九年八月廿二日

將軍家へはくしむる

家紋丸の目し雷根藤



石川

●  
安徳

助七郎

集三河

東照大権現小法久寺

天正十五年病死

安重

助七郎

生玉同安

大捨現

台徳院殿へはくふ

元和七年一病死

安次 ヤチ

名は

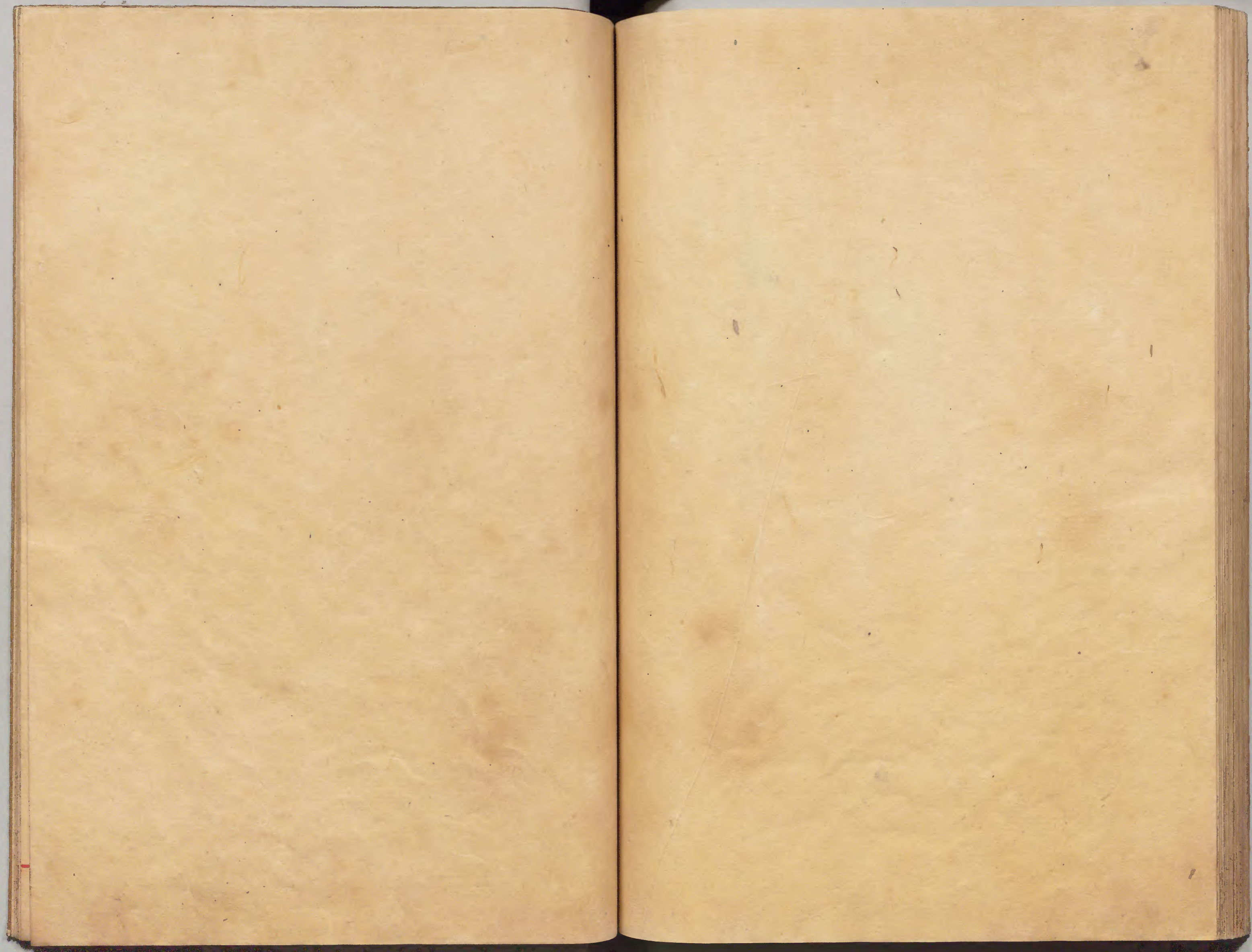
名は ウチ

ヨリ 元和十七年

台徳院殿

將軍家とて

家紋丸の目根藤 ねぞう



石門

● 京

古名古門

生國三列

東照大権現小治之寺

忠吉

長江寺

生玉回

白蓮院殿

將軍家より久しき

元和九年五月廿五日病歿三十六歳

志重 たけしげ

右良太衛門

中玉武藏

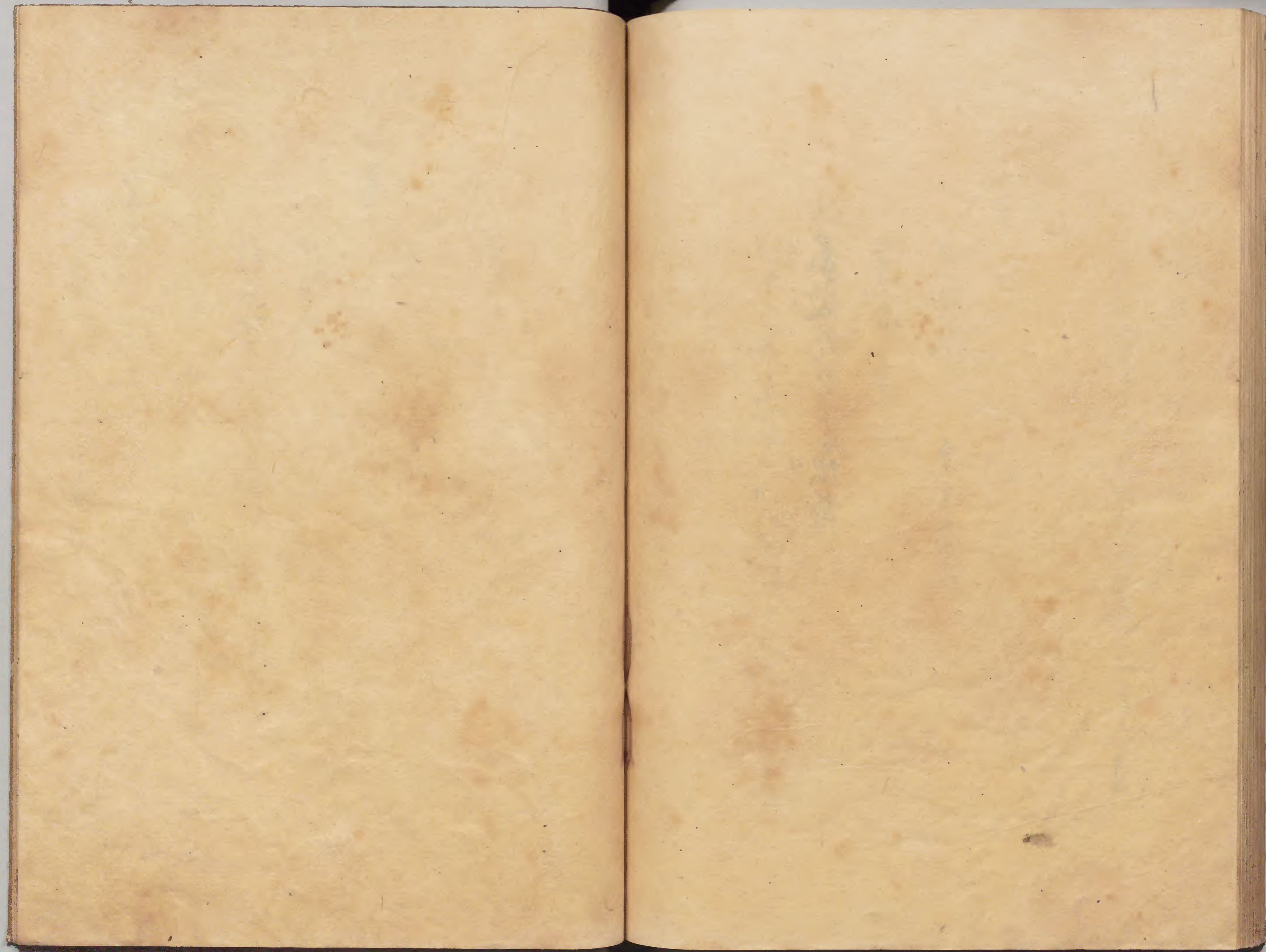
寛永七年

將軍家より久しき

同十一年二百石に増し給ひ一割合

五百石余と仰す

そのと家紋丸の内小根藤 ねがし





石川

● 系

式部卿

清康君

牛小之河

唐惠卿小治久

法石竹良

正重

七良大少尉

牛玉回子

いりたき  
唐忠卿小治久二後  
東照大指現よ治久も

永正

与次右馬尉 生玉同家

大指現へ治久も

元和二年に病死五十六歳

法名淨喜

重正

与次右馬尉 生玉武藏

實ハ兼侍御多又子なり。永正が養子となる

大指現

名徳院殿

將軍家へ治久も子なり

勝正

源光清 生玉同家

將軍家と稱揚しなる

家紋九の角小三葉以深

● 系

米津丸<sup>よふか</sup>生玉三列

法康若<sup>いらい</sup>廣忠郷

大指現小治久<sup>いらい</sup>生玉三列

系

三つ葉

深

よふか

いらい

いらい

小麦

生玉三列

法康若

廣忠郷

大指現八治久<sup>いらい</sup>生玉三列

元龜三十二年<sup>いらい</sup>生玉三列<sup>いらい</sup>三方原合

戦小討死

系

小麦

生玉三列

法康若

廣忠郷

大指現示法久々々々々々々々



